

## 天声人語

枕草子の「にくきもの」に、おしゃべりの長い客や酒ぐせの悪い人などと並んで、蚊が出てくる。〈ねぶたし〉と思ひて臥したるに、蚊の細声にわびしげに名のりて、顔のほどに飛び声くく。眠くて横になつたら、蚊がか細い声で心細げに名乗つてきて……。きれいな表現のなかに、不快さがにじむ▼耳元でキーンという羽音を聞いたときのあの嫌な感じは、今も昔も変わらないのだろう。ただこの夏は、気のせいか、いつもより少ないよう▼あまりに気温が高いと、どうも蚊は飛べなくなるらしい。ネットタイシマカが活動できるのが10度～35度だとする研究があり、日本によくいるヒトスジシマカも同様と見られている。蚊さえまいらせる暑さとは、どういうことか▼大暑のきのう、埼玉県熊谷市で41・1度まで気温が上がり、日本の観測史上で最も高くなつた。東京都、岐阜県、山梨県でも40度超を記録した。外を歩くと、熱い空気が身にまとわりつくかのようだ▼気象庁の定義では最高気温が30度以上なら真夏日、35度からは猛暑日である。40度以上に名前はない。これまで必要なかつたにせよ今後はそもそもいくまいと、考えてみる。「極暑日」「灼熱日」あるいは「炎熱日」？ よそう。気分が悪くなる▼枕草子には秋に入ったころの涼やかな描写もある。夏扇のことなど忘れ、薄手の綿入れをかぶつて昼寝をする気持ちのよさ……。そんなことが、すごくぜいたくなように思えてくる。

2018・7・24